

備える。学ぶ。



2022年度版

# 防災・減災教育プログラム 研修のご案内

講師依頼受付中!

過去の災害から学び、  
人と人が支えあえる社会を

# 実践知を活かした研修メニュー

ピースポート災害支援センター(PBV)は、被災地での災害支援や災害に強い社会作りに取り組む非営利団体です。これまで海外では24ヶ国、国内では65地域の被災地で、延べ10万人の災害ボランティアと共に、災害支援を行ってきました。

現地で活動する中でこんな言葉を良く耳にします。

「まさか私が災害に遭うなんて。ちゃんと備えておけばよかった。」

「実際に災害が起きると、マニュアル通りに動けなかった。もっと訓練をしておけば良かった。」

災害によって悲しむ人が増えるのか、減るのか、それは事前に備えにかかっています

そんな想いからPBVは、災害支援のノウハウを活かして、講師派遣という形で防災減災の普及に努めてきました。

下記の研修メニューは過去の支援経験から生まれたものです。

一方的なノウハウ提供ではなく、どれも一緒に考える参加型のスタイルです。

防災減災の研修をお考えの際は、ぜひご検討ください。

## 避難所の運営研修 ▶P4へ

実例から避難所のあり方や避難生活の実態、開所から閉所まで中長期の避難所運営を体系的に学びます。



## 災害VC運営者養成研修 ▶P5へ

運営者に共通して求められる心構えや、支援体制構築に向けた取り組みを学びます。



## 災害ボランティア養成研修 ▶P6へ

「災害ボランティアとは？」の入門編から「ボランティアをコーディネートする人材育成」のリーダー編まで広く、深く学べます。



## 各種防災研修 ▶P7へ

災害から自分や家族を、そして地域を守るための備えを様々な角度から学びます。



## 全国の社会福祉協議会のご担当者様へ

災害時には、地域を良く知る、災害ボランティアセンター(災害VC)の運営を担う社会福祉協議会(社協)の役割が大きくなります。PBVの災害支援でも、多くの場合は被災地の社協が現地パートナーです。事前の関係づくりの意味も込め、2017年度～2019年度に全社協主催災害VC運営者研修の講師・企画委員を務めました。ご希望に合わせて、全国の各市区町村に講師を派遣しての研修も行っています。災害VC運営者や災害ボランティアの養成研修等、お気軽にご相談ください。

## メッセージ

住民やボランティアの力を被災者をつなぎ、一緒になって地域の復興に取り組む災害VCの役割は、まさに私たち社会福祉協議会の理念にも通じるものです。ただ、災害対応を専門とする組織ではないため、十分なノウハウを持った職員の人材に限られています。PBVをはじめとする様々なNPOとも協力し、平時の研修や訓練、関係者での情報・意見交換などを通じて、引き続き「被災者中心」「地元主体」「協働」の三原則を実践できる災害VCの普及に努めていきたいと思っています。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
全国ボランティア・市民活動振興センター センター長  
高橋良太氏

## 被災地の現場を知る講師

PBVは、日本全国・世界各地で災害支援活動を行ってきました。研修・トレーニングを担当する講師は、全員が被災地の現場でコーディネーター、リーダーの経験を持っています。



## これまでの研修実績

受講人数：41,449人／実施回数：1,104回（2011年～2022年4月現在）

### 研修実施 団体・企業一例 ※一部抜粋

- |             |             |                 |               |
|-------------|-------------|-----------------|---------------|
| ●全国社会福祉協議会  | ●亀山市社会福祉協議会 | ●東京都新宿区         | ●株式会社モンベル     |
| ●北海道社会福祉協議会 | ●大阪市社会福祉協議会 | ●福岡県福岡市         | ●グーグル合同会社     |
| ●東京都社会福祉協議会 | ●倉敷市社会福祉協議会 | ●立教大学           | ●日本財団         |
| ●徳島県社会福祉協議会 | ●青森県        | ●関西大学           | ●日本赤十字社 岡山県支部 |
| ●大分県社会福祉協議会 | ●群馬県        | ●別府大学           | ●習志野青年会議所     |
| ●石巻市社会福祉協議会 | ●北海道浦幌町     | ●東京海上日動火災保険株式会社 |               |

研修依頼者の声

[PBV 研修依頼者の声](#) 🔍

研修実績一覧

[PBV 講演・イベント](#) 🔍

## 多様な支援主体との情報交換やノウハウの共有

PBVでは独自の支援ノウハウ以外にも、平時から様々なネットワークを通じて知見を共有し、より良い被災者支援や防災教育の取り組みに活かしています。

### 加盟ネットワーク名 ※一部抜粋

- |                               |                      |                            |
|-------------------------------|----------------------|----------------------------|
| ●全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)  | ●震災がつなぐ全国ネットワーク      | ●国連防災機関(UNDRR)             |
| ●ジャパン・プラットフォーム(JPF)           | ●おおさか災害支援ネットワーク(OSN) | ●国際協力NGOセンター(JANIC)        |
| ●日本NPOセンター                    | ●新宿NPOネットワーク協議会      | ●NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)    |
| ●東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議 | ●みんなの炊き出し研究所         | ●防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR) |

## 持続可能な開発目標 SDGsを推進しています！



PBVは、国連で採択された2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進しています。SDGsは、第3回国連防災世界会議(2015年／仙台)で合意した「仙台防災枠組」とも深く関係しており、PBVは防災・減災分野を中心に17の目標の実現に貢献します。

## 人道支援の最低基準 「スフィア・スタンダード」



「スフィア・スタンダード」や「Core Humanitarian Standard (CHS)」は、人道支援の現場において支援者が守るべき国際基準です。PBVは、被災地の現場でこれらの基準を遵守して活動するほか、日本のNPO/NGOと協力し国内での普及活動にも取り組んでいます。

## 全国災害ボランティア 支援団体ネットワーク



全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)は、被災地における支援のめり・むらを防ぎ、地域のニーズに合った活動を促進するための情報集約、連携調整に取り組んでいます。PBVは、正会員団体として設立当初からJVOADに参画しています。

# 避難所の運営研修

## 命・生活・尊厳を守る。

ひと口に「避難所」と言っても、行政が指定する施設や自主的な避難先など、その種類は様々です。大きな災害になれば、避難所は何ヶ月もの間生活を続ける“暮らし”の空間になります。しかし、残念ながら過去の被災地では避難環境等に起因する心身の健康被害や災害から助かった命が亡くなってしまったという災害関連死も起こっています。被災者の命と生活、尊厳を守るため、中長期での避難所の運営と環境整備のポイントを学びます。実際の被災地での事例を取り入れた座学やグループディスカッション・体験型シミュレーション訓練などの具体的で実行性のあるプログラムを実施します。



### 対象

避難所運営に関わる自治体職員／地縁組織／住民／ボランティア／施設管理者等

### 養成する人物像のイメージ

人道的な被災者支援を基に、中長期における避難所の運営、生活環境の整備・改善ができる

避難所の機能や避難生活における基礎知識と発生し得るリスクを理解し、対策や実践ポイントを学びます。また、事例をもとに、多様な被災者への配慮とニーズ対応、避難所の各運営内容について理解を深めます。



### 各運営の役割やテーマ別研修 時間：60分～

- 各運営の役割やテーマごとの基礎知識、課題や解決策・工夫事例を学ぶ
- 各専門分野の幅広い知識・スキルを身につける (例) 寝床、トイレ、食事、レイアウト、受付、感染症対策、要配慮者、被災者心理等



### ここがポイント!

- 70ヶ所以上にのぼる避難所支援の経験と事例を紹介
- 避難所の全体像や発災直後から閉所までの流れを体系的に学べる・事例をもとに、運営の役割やテーマごとの課題と対応策を学べる
- コロナ禍における避難所運営と感染症対策のノウハウ提供

### 被災地の声 /

熊本地震の避難所では、たくさんの課題がありました。東北でも支援経験があるPBVIによる長期で継続的なサポートに、住民も心が癒され、前向きになれたと思います。

(熊本県益城町役場職員)

# 災害VC運営者養成研修

## 関係者の共通認識から始まる災害VC運営

災害VCが被災者の生活再建に向けて機能するには「人材」が何より重要です。災害時、刻一刻と変化する状況の中、必要な取り組みを検討し実行すること。またそれに向けた平時には、「誰のための・何のための取り組みなのか」という関係者の共通認識が欠かせません。その上で具体的な動きの検討や技術習得の為の研修会や訓練を行うことで、それぞれの地域にあった実践的な取り組みに近づいていきます。

PBVでは全社協主催の災害VC運営者研修で講師・企画委員として関わった経験や、各地での被災地支援の経験から課題の具体的な事例をもとにした研修内容を提供しています。



### 対象

社協の職員／災害VCと連携する行政やNPO／災害VCの運営を手伝う住民ボランティア等

### 養成する人物像のイメージ

災害VCに対する共通理解を持って、災害時の運営や平時の取り組みに関わる運営者

災害VCを運営するに当たっての共通認識作り、具体的な体制を検討するための運営や対応事例の提供、設置運営訓練の講評などを、順を追って取り組みます。それらは地域事情に合わせた実践的な取り組みを検討する素地となります。

### STEP 1

#### 入門編

時間：90分～

災害発生時に被災者が置かれる状況や抱える課題、それに対する支援の基本的な仕組みを知り、被災者支援の重要性を確認します。



### STEP 2

#### 基礎編

時間：90分～

災害VCの基本的な役割や機能、運営の3原則と言われる「被災者中心」「地元主体」「協働」の心構えを確認し、災害VCのイメージをすり合わせます。



### STEP 3

#### 運営準備

時間：90分～

災害VC運営に必要な要素や取り組み事例の紹介を通して、災害VCの運営イメージを広げます。またそこから平時にどのような取り組みが必要か考えます。



### STEP 4

#### 机上訓練

時間：4時間前後

PBVが制作した「災害VCマッチングシミュレーションゲーム」を使用して、災害ボランティアの受入やトラブルシューティング、どのような支援活動が必要になるのかなどのシミュレーションを行います。



### STEP 5

#### 設置運営訓練

災害VCを実際に設置し具体的な運営の動きや役割、課題などの確認を行いその後の取り組みの方向性等を検討します。

※設置運営訓練に関して企画の代行は行っていません。実施までのアドバイスや訓練の講評を担当いたします。



### ここがポイント!

- 被災地での災害VC運営支援は25ヶ所以上。
- 開設から閉所まで一気通貫で支援を実施し、フェーズによる取り組みの変化も紹介。
- コロナ禍での災害VC運営も経験し、感染症対策のノウハウあり。
- 全社協が主催する災害VC運営者研修に講師/企画委員として参加。

### 受講者の感想 /

災害VCの本質的な役割について学び、被災者の為になる活動を心がけようと思った。思っていた以上に様々なことを想像して支援に当たる必要があると分かった。さらに実際の被災地での経験談や事例を学びたいと思った。

(北海道在住/社協職員)

# 災害ボランティア養成研修

## 災害時に活躍する支援の担い手を育てる

近年、発災時に被災者が抱える様々な課題に対応する支援の担い手として、災害ボランティアは欠かすことのできない存在となっています。ボランティアの力を最大限に活かし被災者の困りごとを解決するためには、ボランティア活動に参加する人を増やし、また円滑な活動を行うためのノウハウを持った人材を育てることが求められます。

本研修は、被災者に寄り添った支援活動ができるボランティアやチームリーダーを育成するための講座です。

支援の現場で起こる様々な課題を理解し、活動中に行うべき具体的な活動ノウハウが身に付く内容を提供しています。



### 対象

災害時の支援活動に関心のある地域住民／災害時に活動するボランティア団体などのメンバー

### 養成する人物像のイメージ

安全で被災者に寄り添った支援活動が行えるボランティア

災害ボランティア活動の目的や活動に関する基礎知識から、実際に活動に参加した際の安全に関する注意点や被災者に配慮すべき点、チームとしての円滑な支援活動を行うためのポイントを学ぶ3つのレベルの講座を実施しています。

### STEP 1

#### 入門編

時間：60分～

災害ボランティアの役割を理解し、活動の種類や参加方法、災害VCでの活動の1日の流れを確認します。



### STEP 2

#### 基礎編

時間：90分～

災害ボランティア活動を行う上で必要な心構えを理解し、活動中に安全で被災者に寄り添った活動を行うためのポイントを確認します。



### STEP 3

#### チームリーダー編

時間：60分～

災害VCで活動する災害ボランティアのチームリーダーとして求められる役割を理解し、チームとして円滑な活動を行うためのノウハウを学びます。



初心者にも分かりやすい解説のブックレットを使用しています。  
(2019年／合同出版)

### 受講者の感想 /

被災地に行く前のタイミングだったので、様々なことを想像しながら受講しました。現場での具体例も多く紹介があり充実していました。自分にもできることはあると思えました。

(群馬県在住／公務員)

### ここがポイント!

- これまでにのべ10万人以上のボランティアをコーディネート。その経験をもとに様々な支援の現場での事例を紹介。
- 座学での講習だけでなく、参加者同士でボランティア活動中の課題について検討するワークショップも実施可能。
- 参加者層や地域の事情に合わせた内容のアレンジにも対応。

自助

共助 公助

# わが家の災害対応ワークショップ

## わたしと家族を守る。

地震編と水害編の2種類があり、どちらもワークショップ形式で学びます。家族のライフスタイル、避難する場所や地域の特性に合わせて、被災したまたは被災の恐れのある状況をイメージします。「いつどこに避難する?」「家族との連絡手段は?」「自宅では何を備蓄するばいい?」など、災害後の対応や備えについても解説します。

●時間:90分 ●レベル:初級

内容

- ① 講義と記入式ワーク  
家族・自宅・地域を知る
- ② 記入式のワーク
  - 地震編:災害発生から72時間をイメージする
  - 水害編:災害の恐れのある大雨からの避難をイメージする
- ③ 解説  
災害への備えと対応を考える

対象

対象年齢:15歳以上  
何を準備すればいいかわからない人  
防災・減災について基本から学びたい人



わが家地震編にはオリジナルのワークブックがあり、販売もしております。

### 受講者の感想 /

授業があった日の夜、ご飯中に家族で防災について話しました。実際に次の日に地震(震度4)がありましたが、昨日話し合ったせいか落ち着いて行動ができました。

(宮城県在住/中学生)

地震編は日本語を母語としない方向けに「やさしい日本語」「英語」での研修も可能です。あなたの地域や組織で、本講座の研修の講師を育てる「講師養成プログラム」も実施しています。

自助

共助 公助

# 支援を活かす地域力ワークショップ

## 被災体験から学ぶ地域防災。

東北や熊本で被災者が直面した事例をもとに、「災害に遭ったとき、誰がどのように支援してくれる?」「災害時に必要な地域のつながりとは?」など、近隣での支え合いと外部支援の受け止め方を学びます。後半は、平時に取り組むべき地域での顔の見える関係づくりを考えます。

●時間:3~4時間 ●レベル:中級

内容

- ① 講義  
災害対応の流れと役割分担
- ② 設問と解説  
「ひと・もの・かね・情報」の活用
- ③ グループワーク  
災害時に役立つ地域資源とは?

対象

町会・自治会の自主防災会  
地域の青少年委員、民生委員  
災害時の「受援力」を育てたい地域



教材には、東日本大震災の宮城県石巻市での住民からの教訓が盛りだくさん。

### 受講者の感想 /

過去に聞いた被災地の「点」の話が、一連の流れでつながり有意義だった。自主防災組織としての今後の取り組みの参考になりました。資料もわかりやすかった。

(香川県在住/自主防災組織)



実施時間や内容は、地域の実情に合わせてカスタマイズします。お気軽にご相談ください。

私も推薦します。



株式会社モンベル  
代表取締役会長  
辰野勇さん

ピースボートとの出会いは2005年に発生したパキスタン地震での支援活動でした。私自身、アウトドアのグッズやノウハウが災害の現場でも活かせると思い、その後も新潟中越沖地震や東日本大震災などで支援活動に協力させていただきました。支援を行なう現場で感じたのは、“日ごろからの準備”とともに、その備えたものを使いこなせる“想像力と知恵”を身につける必要があるということ。残念ながら、災害は防ぐことができません。一人ひとりが備えることで、災害による被害を少なくしたいと思っています。



関西大学社会安全学部社会安全研究科  
准教授  
菅磨志保さん

「自発性を組織化する」とは矛盾した課題だ。活動効率を高め、組織化を追究しようとするれば、ボランティアの個性は活かし難く、自発性も萎えてしまう。阪神・淡路大震災で「組織化されたボランティア」が被災地の役に立つことを見せてくれたピースボート。東日本大震災でも、大勢のボランティアを被災地につなぎ注目された。そんなPBVのトレーニングでは、個々のボランティアの意欲と力を引き出しながら、被災地の役に立つ活動を展開していく秘訣が学べる。そのノウハウは、被災地での活動だけでなく、日常の地域課題を考えていく上でも様々なヒントと提供してくれると思う。

## 講師派遣のご依頼の流れ



HPの研修ページをご覧ください、フォームよりお問い合わせください。研修内容や実施時間などの細かなご希望も、お気軽にご相談ください。また、お見積りのご依頼も承っています。



お問い合わせの内容への返答とあわせて『講師等派遣申込書』を送付いたしますので必要事項を記入し返送ください。



『講師等派遣申込書』の内容を基に、細かな実施内容等に関してご相談にのります。なお、事前の打ち合わせに別途費用はかかりません。



研修は、講師と受講者が会場に集う対面形式またはオンライン形式どちらでも実施が可能です。

## 講師派遣は、お気軽にご相談ください！

PBVではパンフレット記載の研修をはじめ、各種講演や研修の講師派遣を行っています。対象者に合わせた内容や実施時間のアレンジ、各種アドバイザーも承っております。お気軽に事務局まで、お問合せください。

※講習費は実施時間や内容、派遣講師の人数によって異なります。  
※講師の旅費交通費、教材が必要となる場合には、実費を別途請求させていただきます。

### 講演・講師派遣の金額の目安(税込)

1時間程度の研修の場合

・営利団体・自治体 | 77,000円～

・非営利団体・学校 | 55,000円～

詳しくは

PBV研修



TEL: 03-3363-7967 [10:00~18:30 土日祝定休]

MAIL: training@pbv.or.jp

一般社団法人ピースボート災害支援センター (PBV)  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A  
TEL : 03-3363-7967(10:00~18:30/土日祝定休)



各地での被災地支援や防災減災の取り組みを  
こちらで発信しています！



LINE



Facebook



Twitter